

3 今後について

棚田サポーター活動の参加人数は減少傾向にあります。条件不利地域において農業を持続させるためには棚田サポーター活動などを通じて農村協働力を高めることが重要になると思います。

また、農業農村整備事業を推進するためには農業の有する多面的機能（景観などによるやすらぎ機能など）を経済効果にいかんにかに計上するかが課題となっていますが、それを解決するには、棚田サポーター活動により自然環境を保全し、ホームページなどを利用して広報することで自然環境に対して啓発を図ることも必要ではないでしょうか。

今後も新潟県の農村振興および豊かな自然環境保全に資するために、棚田サポーター活動に協力したいと思います。

「平成21年度ほ場整備地区農業・農村活性化研修会」を開催しました

新潟県農地部農地整備課

12月16日（水）に新潟市中央区「新潟テルサ」において、新潟県経営体育成農地集積促進協議会、水土里ネット新潟及び新潟県の共催で、「平成21年度ほ場整備地区農業・農村活性化研修会」を開催し、県内のほ場整備地区のリーダー及び農業関係機関の担当者等、約1,000人が一堂に会し、講演、パネルディスカッションによる研修会が行われました。

ほ場整備は農業生産性の向上や食料の安定供給に大きく寄与していますが、米価の動向等の農業・農村を巡る諸情勢から、経営規模拡大によるさらなる担い手の経営体質の強化を促進するとともに、面的なまとまりを重視したより高度な集積や整備された優良農地を有効活用した高生産性農業の実現などが求められています。当研修会は、これらの課題に対する方策などを検討し、各ほ場整備地区における望ましい農業構造の確立とその持続的な発展を図ることを目的に実施したものです。

まず、東北大学大学院農学研究科准教授の伊藤房雄氏から「農地の有効活用を核とした地域農業の展開方向と課題」と題し、現在、各地区の農業の抱えている課題を踏まえて、それぞれの地区における農業所得確保に向けた効率的な農地利用のあり方、農業生産の担い手を確実に確保するための方策などについて講演がありました。

次に、講演をされた伊藤准教授をコーディネーターに県内各地でほ場整備地区の農業生産構造の改善に取り組んでいる土地改良区理事長や農地の集積、効率的利用を実践されている農業法人や大規模農家をパネラーとした「パネルディスカッション」を行いました。講演時に提言された地域農業のあり方や担い手育成の手法などに対する事例の紹介や提言があり、活発な意見交換がなされ、地域農業の確立や担い手育成に向けた今後の進め方などについて理解を深める良い機会となりました。

今後、当研修会において提供された情報などを参考に、参加者それぞれが各地区における効率的な地域農業の仕組みづくりに向けた推進役となり、大いに活躍することが期待されています。

